



2024年8月10日 発行:練馬・生活者ネットワーク 発行責任者:君垣圭子
〒176-0001 練馬区練馬1-15-1-302 TEL:03-3993-4899 FAX:03-5999-4632
webページ <http://nerima-net.gr.jp> メール info@nerima-net.gr.jp

いま自然に何が起きているのか 人と自然との共生を考える

「杜人 環境再生医 矢野智徳の挑戦」上映会より



▲2024年6月1日、実行委員会主催の「杜人(もりびと)」上映会とトークセッション。左からやない克子、前田せつ子監督、山崎まりも

「呼吸と血管、空気と血液の循環が体の中をめぐっているのと同じように、大気と水の動きが地球全体からどのように循環している」この循環に支障が出ると、人間も成人病など体に影響をおよぼすように、自然環境にも影響します。

コンクリートで固められた大地は生態系循環不良を起こしている

近年の大量降雨などによる地滑りや川の氾濫などの被害の原因は、気候危機による天候の変化と川や沼地など本来であれば住居に向かない土地(地形)を開発し住宅地にしたことだと私は考えていました。しかし、それだけではなく、世界中に広がる「コンクリート土木」が循環不良を起こしているのではないかと映画は指摘しています。

大地にコンクリートが載せられ、重機という重い鉄の塊の機械で地面を傷める⇒空気や水が循環しない有機ガスがこもる土の層(グライ土壌)をつくる⇒バクテリアから小動物、植物の下草から高木、あらゆる生態環境の機能に問題をもたらします。

生態系循環不良、わたしたちにできること

映画では、校庭が大きな水たまりになった小学校が出てきます。「水たまりや泥水は、大地の血管が詰まっている証拠」と矢野さん。移植ゴテで表層に水みちをつくることで、どんどん水が流れ始めました。

そして、水が流れ始めるとチョウチョなどの生き物も寄ってくる、そんなシーンも印象的でした。

映画撮影から5年以上経過した今、前田せつ子監督は地元の国立(くにたち)第二小学校の新校舎建設に伴い「伐採される100本ほどの樹木の命を救いたい」と、奔走する日々です。伐採を免れた樹木のうち4本(桜3、もみじ1)が練馬区内の武蔵大学に移植されたとお聞きしました。

命をも脅かすほどに気候危機は深刻であり、環境を再生することは喫緊の課題です。

練馬からできることを考えていきます。環境部会 やない克子

減少していく練馬の みどりを守るために

大泉町の稲荷山公園は2019年に策定された第2次みどりの風吹くまちビジョンで具体的な整備計画が示されました。突然示された計画区域内には400戸の住宅もあり、住民からは「立ち退かなければならないのか」と不安の声があがっています。



○平成29年には、「清水山憩いの森」を、人工物をできるだけ作らない自然を残した「清水山の森」として公園整備を行った。
※区の資料「稲荷山公園基本計画(整備イメージ)」より抜粋

また、計画ではレストランやオープンカフェなども検討されており、生物多様性や水脈の保全などの自然環境への影響が懸念されます。

昨年10月からは造園・動植物・自然環境・防災・都市計画の学識経験者からなる「専門家委員会」が開かれていて、会議では生活者ネットワークが以前から提案しているグリーンインフラの視点が示されています。

計画ありきで進めず、地域住民の意見を丁寧に聴くことが必要です。

環境部会 山崎まりも

練馬・生活者ネットワークのルール

1. 議員を職業化せず、特権化しないために、議員はローテーション(交代)します。
2. 議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。
3. 選挙は市民のカンパとボランティアで行います。

◎カンパを募集しています。

カンパ振込先【郵便振替】00100-6-398010 練馬生活者ネットワーク

▶区内とは思えないほど鬱蒼としている稲荷山憩いの森。お稲荷様には「油揚げ」のお供えもあり、地域住民の暮らしの大切な一部であることが伺える

